

弘前市文化芸術振興計画
策定に係るアンケート
結果報告書（案）
【文化芸術団体編】
（修正部分抜粋）

令和3年〇月

弘 前 市

調査結果概要

ここでは、本調査の結果についてのまとめを記載しています。

1. 文化芸術団体の状況

文化芸術団体の状況については、以下の5つが見えてきました。

【会員の平均年齢】

文化芸術団体に所属する会員の平均年齢については、60歳代以上の団体の割合は57.2%となり、高齢の会員が多い結果となりました。

【活動経費の規模】

年間活動経費が49万円以下で活動している団体は53.1%でした。

【ホームページの整備状況】

専用のホームページ（SNSを含む）を持っている団体の割合は29.9%でした。

【新規会員の募集活動の有無】

未加入者や未活動者向けのPR活動を行っている団体の割合は76.3%となり、活動内容は紙媒体（チラシ、新聞、雑誌等）の活用が多くなりました。

【後継者育成活動の有無】

後継者育成を目的とした活動を行っている団体の割合は49.5%でした。

2. 文化芸術団体が抱える課題

文化芸術団体が困っていることとして、以下の4つが見えてきました。

【新規会員や後継者の不足】

新規会員の募集活動は76.3%の団体で行われていますが、依然として新規会員が増えず、次の時代の活動を支える後継者も不足しています。

【活動のための資金の不足】

活動経費を会員の年会費で賄う団体は53.1%となりました。新規加入者の不足や会員の高齢化によって今後会員の減少が続くと、活動資金の確保が今まで以上に難しくなります。

【活動の場の不足】

市内に文化芸術の練習や発表を行う場が少なく、活動の場の確保に苦勞する団体が多いことがわかりました。

【活動をPRする機会の不足】

団体が行う活動を広く市民に周知する場や機会が少なく、市民編の結果報告書でも、文化芸術の催しや活動の情報が得られないという結果が表れていました。

3. 今後の文化芸術振興に求められること

上記の1・2を踏まえ、今後の文化芸術振興においては、特に以下の4点に取り組むことが求められます。

【子どもたちが文化芸術に触れる機会の創出】

弘前市の次世代を担う子どもたちに文化芸術に親しんでもらえるように、その機会づくりや文化芸術の普及・教育活動を、行政・団体双方が協力していくことが求められます。

【施設使用料の減免】

市内の団体の活動経費の負担を軽減できるよう、文化芸術の練習や発表を行う際に使用する文化施設等の使用料の優遇措置が求められます。

【活動の場の創出】

多くの団体が頻繁に文化芸術の練習や発表を行えるように、既存の公共施設の文化芸術団体への開放など、活動の場を創出する工夫・調整が求められます。

【市内で行われる文化芸術の催し・活動の発信・周知】

市内で行われる文化芸術の催しや活動に関する情報の発信・周知を団体が行いやすくなるよう、支援体制の構築や発信・周知できる場の創出等の工夫が求められます。